

5 調査結果から見る今後の支援策

調査結果から、今後の支援策として9つのカテゴリーに反映しました。

調査結果からみる 9つの支援策

支援策 1 **電子申請のさらなる推進**

支援策 2 **生活困窮者(特にコロナ禍の影響による収入減となった世帯)のための支援**

支援策 3 **未就学児の子どもを持つ親への相談体制の強化**

支援策 4 **小学生・中学生の子どもへの学習支援**

支援策 5 **小学生・中学生の子どもへのネットリテラシー教育**

支援策 6 **高齢者の生きがいのづくりの支援**

支援策 7 **地域活動等の支援**

支援策 8 **運動する機会の提供**

支援策 9 **市内事業者への支援**

《お問合せ先》

志木市 市長公室 秘書政策課
〒353-8501 埼玉県志木市中宗岡1-1-1
電話：048-473-1111 (代表)
FAX：048-472-3766



コロナ禍の影響に関する志木市全世帯意識調査

《調査結果(概要版)》

1 調査の目的

新型コロナウイルス感染症は、全国で猛威をふるい、健康面や経済面などあらゆる分野で大きな影響を及ぼしており、本市においても、長期化するコロナ禍により市民生活や地域経済はかつてないほどの影響を受けています。このような状況を受け、コロナ禍によって生活がどのように変化し、どのような施策や事業が必要なのか、市民の皆様の声をお伺いし、分析することで今後の施策や事業立案の基礎資料とするため、全世帯を対象とした意識調査を実施しました。

2 調査の概要

実施期間	令和3年10月25日(月)～令和3年11月22日(月)
調査地域	志木市全域
調査対象	全世帯(事業所含む)
調査方法	配達地域指定郵便により全世帯及び事業所に発送。回収は以下の2通り。 ①同封した返信用封筒による回収 ②インターネット回答
対象者数(配布数)	35,586件
有効回収数	①紙回答：9,478件 ②ネット回答：3,905件 計：13,383件
有効回収率	37.6%

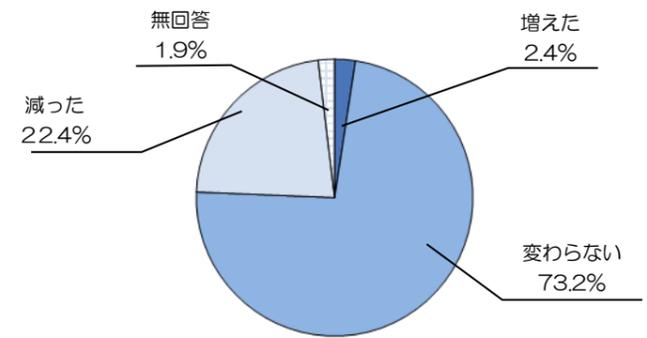
3 調査内容

1	回答者の世帯について	・世帯人数 ・居住地域 ・職業
2	新型コロナウイルス感染症による影響について	・収入状況 ・テレワークの実施状況 ・生活の変化 ・コロナ禍での困りごと・心配ごと ・ボランティア活動・地域活動への参加状況 ・商店等の利用 ・交通手段
3	市の施策について	・市独自の緊急対策の評価 ・重点的に取り組むべき施策

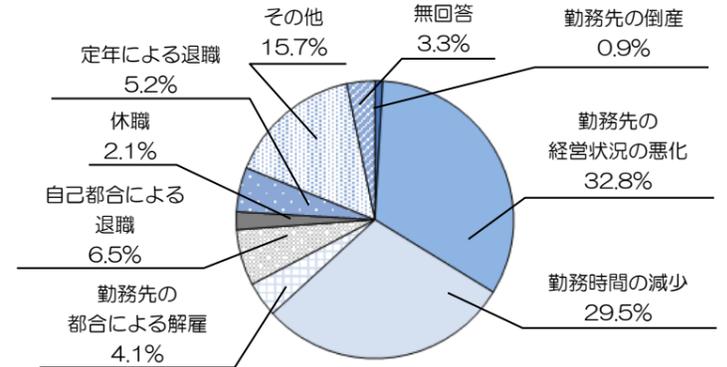
4 調査結果の概要

設問	結果及び特徴
基本属性	<ul style="list-style-type: none"> 世帯人数は、「2人」が最も多く、次いで「1人」、「3人」の順となっています。 居住地域は、「本町」が最も多く、次いで「柏町」、「幸町」の順となっています。 職業は、「会社員・団体職員（役員含む）」が最も多く、次いで「働いている人はいない」、「自営業」の順となっています。
収入状況	<ul style="list-style-type: none"> 収入状況については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前と比べて「変わらない」と回答した割合が最も高かったものの、「減った」と回答した割合もおよそ2割であり、その理由については新型コロナウイルス感染症の影響によるものが多く、特に「勤務先の経営状況の悪化」が最も多いです。
テレワークの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> テレワークの実施状況については、「実施していない」が最も多く、その理由として「業種上、テレワークが困難」が最も多いです。 職業別では、会社員・団体職員（役員含む）では、およそ5割がテレワークを実施しています。
生活の変化	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の感染拡大前後での生活の変化については、外出では、「旅行や観光など娯楽のための外出」が大幅に減少しています。 健康面では、「運動量」が減少した割合は高いものの、およそ4割が変わらない、または増加しているほか、「健康について考える機会」が増加しており、健康に対する意識が高まっています。 「電子マネーの利用」については、およそ6割の世帯が利用しており、一般的な決済手段の一つとして利用されています。
コロナ禍での困りごと・心配ごと	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での困りごと・心配ごとについては、全体では「外出制限による交流機会などの減少」が最も多いです。 未就学児から18歳未満の子どもがいる世帯では、「遠足や運動会などの園の行事が減った」、「学校行事やクラブ活動が減った」、「学校行事や部活動が減った」が最も多く、未就学児の子どもがいる世帯では、「保護者同士でのコミュニケーションが減った」、小学生から18歳未満の子どもがいる世帯では、「子どもがゲームをしたりスマートフォンなどを使用する時間が増えた」が2番目に多いです。 子どもの年齢が上がるにつれて「授業時間の減少などにより、学習状況に不安がある」と回答した割合が増えています。 65歳以上の高齢者がいる世帯では、「外出したり、屋外で運動することが減った」が最も多く、次いで「ご近所の方や友達と会話などのコミュニケーションが減った」、「家にこもりがちになった」の順となっています。
ボランティア活動・地域活動への参加状況	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動・地域活動への参加状況については、「以前は参加していた」を含め、参加回数が減った理由のうち、新型コロナウイルス感染症の影響によるものがおよそ7割を占めるとともに、65歳以上の高齢者がいる世帯についても、およそ5割と高い状況です。 コロナ禍におけるボランティア活動・地域活動への市に求める支援については、「特にない」が最も多く、次いで「消毒液や非接触型体温計などの感染症対策用品購入費の助成」、「新型コロナウイルス感染症対策に関する情報提供」の順となっています。
商店等の利用	<ul style="list-style-type: none"> 商店等の利用については、「ネット通販」の利用は、他の利用に比べて「増えた」と回答した割合が高いです。 「地域の商店街および個人商店等」については、「増えた」が最も低いものの、「変わらない」と回答した割合と合わせると、およそ7割が利用している状況であり、利用が増えた理由は、「近隣に商店街や個人商店等がある」が最も多く、次いで「地域の商業や経済を支えたい」となっています。
交通手段	<ul style="list-style-type: none"> 主な交通手段については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前後いずれも「徒歩」が最も多く、次いで「自家用車」、「自転車」の順となっています。 「電車」及び「路線バス」の利用については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前に比べておよそ1割減少しています。 期待する公共交通サービスについては、「路線バス」が最も多く、次いで「特にない」、「デマンド交通」の順となっています。
市独自の緊急対策の評価	<ul style="list-style-type: none"> 市独自の緊急対策については「水道料金の一律減額」が最も評価する割合が高く、次いで「プレミアム付商品券の発行」、「インフルエンザワクチン接種助成」の順となっています。
重点的に取り組むべき施策	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策として重点的に取り組むべき施策については、「生活困窮者のための支援」が最も多く、次いで「子育て世帯への支援」、「オンラインによる行政手続きや窓口相談等の『市役所に行かなくていい』仕組みづくり」の順となっています。

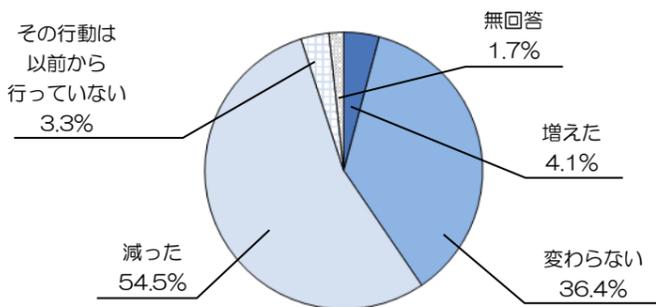
新型コロナウイルス感染症の感染拡大前と比較して、収入状況



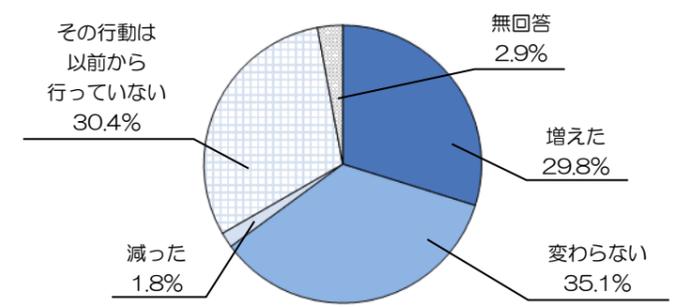
新型コロナウイルス感染症の感染拡大前と比較して、収入が減少した理由



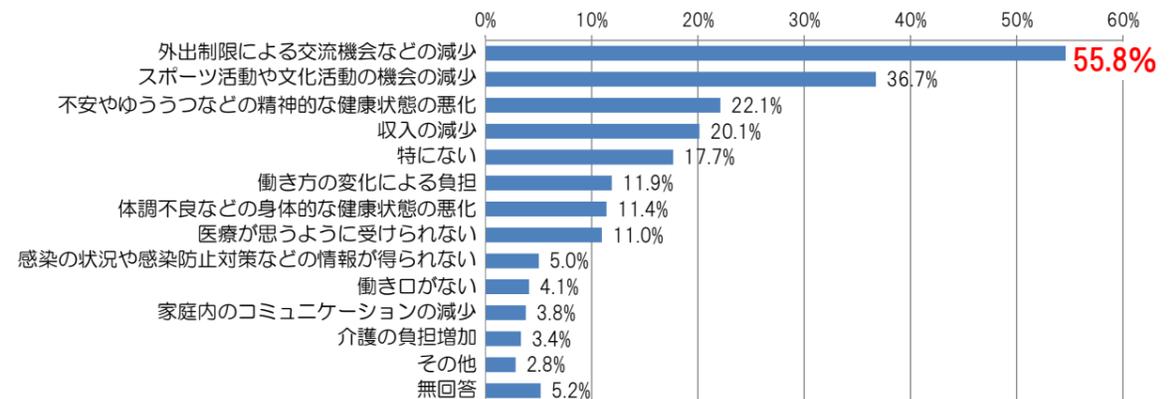
新型コロナウイルス感染症の感染拡大前と比較して、運動量の変化



新型コロナウイルス感染症の感染拡大前と比較して、電子マネーの利用の変化



コロナ禍による困りごと・心配ごと



志木市が今後、新型コロナウイルス感染症対策として重点的に取り組むべきと思う施策

